てんぐ新聞

'10-1. No152
発行 市岡日出夫
責任
0883-88-5292

5年目に向けてスタート

活彩 祖谷村

何もしない事の大切さ、何かしなければいけない大切さ

祖谷村、村民の皆様、お元気で新年をお迎えのことと存じます。
祖谷村も四月から五年目となります。十二月の151号で少し悲観的な祖谷村の活動について報告した所、全国の村民の中から、ご支援の声やご心配の声が寄せられました。
ありがとうございました。
今や村民は北海道から沖縄県まで広がってはいますが、四国祖谷村、西祖谷山村の地域では、特別増えているとはいえません。しかし、活動がストップしているかといえば、これ又NOです。
大きなイベントもありませんが自分達の力にあった小さな取り組みは確実に継続をしています。
ただ組織的な動きは少ないでしょう。

関東の村民からは、「4月から5月に総会の様なものを開催してはどうか」とのアドバイスがありました。
地元の村民のてみたいとおもいとともかく、熱意みが遅くても、確いとおもいます。

皆さんと話しあっがある限り、歩実に歩き続けた独立宣言文にある「田舎というブランドを大切に」「祖谷というブランドにこだわり」「不便というブランドとうきあう」気持を忘れないならば、なにもあせる事はないとおもいます。
祖谷地方に、真実な祖谷村の種が一本でも残り祖谷村が存在するのです。
全国の祖谷村村民の心の支えとなれるよう、継続、前進していきます。
ある本の中に「ものに名前が付けば、意味が生まれ、認識され、世界が確立する」という文章があり、なる程とおもいました。
祖谷というブランドにこだわれば、何もしない事の大切さという事も重要です。
今よりマイナスにならない為に。
そして、何かしなければいけない大切さもあります。
頑張を嘆き ダメだダメだを連発し補助金があればやるというのでは、何かをやったことの感動は得られません。
皆んなで、同じ目標に向って何かをはじめれば、感動は大きくなります。五年目の祖谷村、感動を共有しませんか。